

板橋区の資金管理及び運用状況について

区では、「板橋区資金運用方針」に基づき、会計管理者が管理する資金について、元本の安全性を最重視するとともに、流動性の確保と効率性の追求を図りながら管理・運用に取り組んでいます。

1 歳計現金等

歳計現金等とは、区の歳入歳出に属する現金のことで、日々の支払いのために準備している現金（歳計現金）と、区の歳入歳出に属さない現金で法令等に基づき区の責任において一時的に受払いをする現金（歳計外現金）をいいます。

<管理・運用方法>

歳計現金等の管理・運用は、指定金融機関その他の確実な金融機関への預金等、最も確実かつ有利な方法で保管することになっており、受払い状況に支障の無いよう細心の注意を払っております。

<運用実績の概要>

- (1) 資金収支を精査し、コロナ禍による影響を考慮したうえで譲渡性預金にて運用しました。
- (2) 令和4年度上半期は、令和3年度の同時期と比較すると、平均残高が増加したため、譲渡性預金を用いた効率的な運用により、運用収入も増加しました。

単位：千円

	令和4年度 上半期（4月～9月）	令和3年度 上半期（4月～9月）
平均残高	17,918,233	14,091,248
運用収入	267	179
平均利回り	0.003%	0.003%

(参考)

令和3年度	令和2年度
12,432,825	19,578,568
325	426
0.003%	0.002%

*平均利回りは、当該年度上半期の運用収入の2倍を平均残高で割った数値で算出しています。

2 基金

地方公共団体が特定の目的のために、財産を維持し、資金を積立て、または定額の資金を運用するために設けた財産で、将来の特定事業への負担に備えるための資金です。一般家庭で言えば貯金にあたるものです。

<運用方法>

基金は、運用目的及び積立て・取崩し計画を勘案したうえで、金融機関への預金や債券の購入等により運用を行っております。

<運用実績の概要>

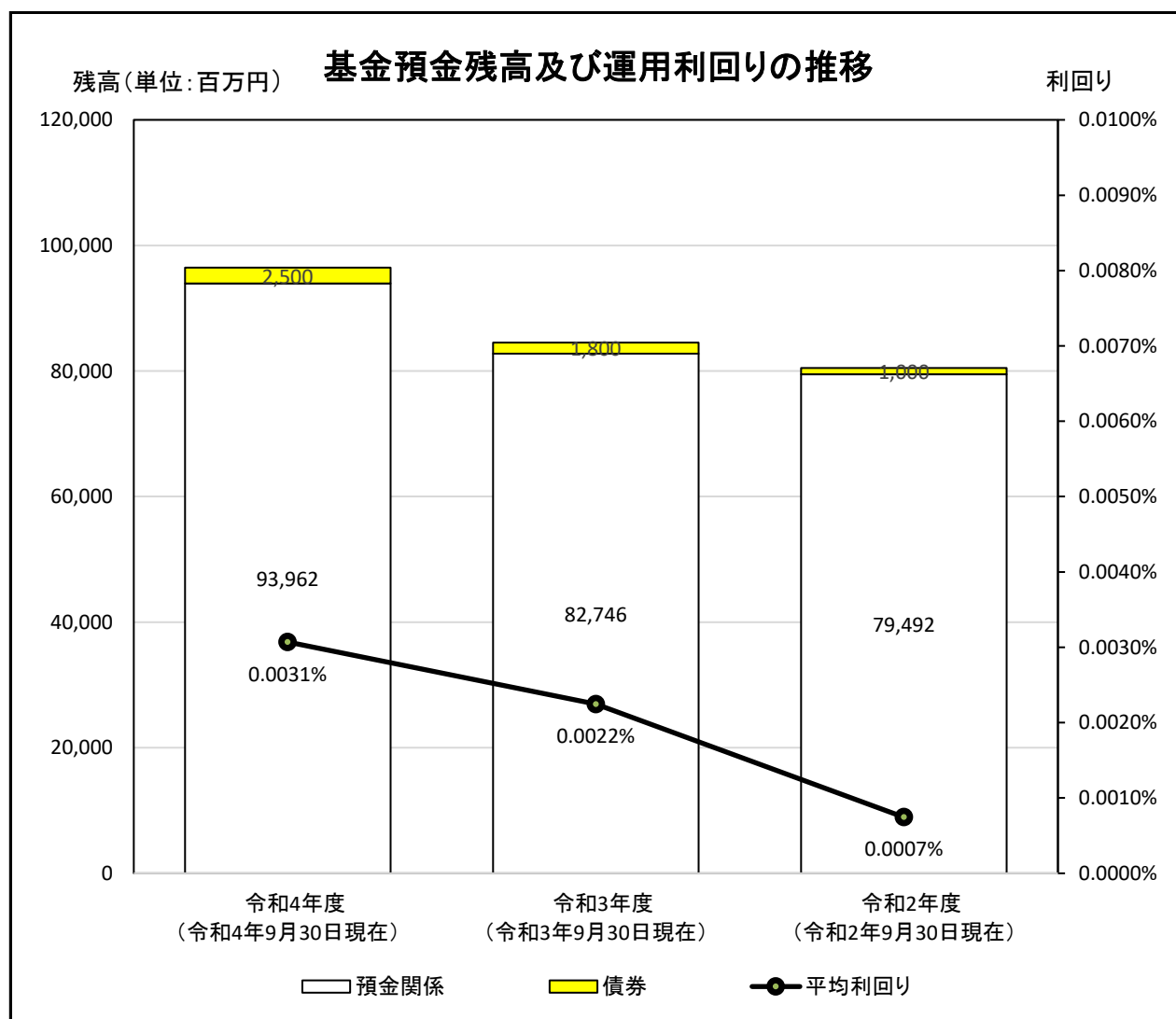
(1) 基金の運用状況

令和4年度上半期は、安全性を確保しつつ比較的利回りの高い定期預金等で運用を行いました。平成28年度以降の超低金利の状況下において利回りを確保できるよう、平成29年度から定期預金の預入期間を最長1年まで拡張して運用しているため、利子収入が下半期にまとめて計上されます。このため、令和4年度上半期は、預金の運用収入が百万円に満たない実績になっています。なお、令和2年度から引き続き債券運用を行っています。

単位：百万円

区分	令和4年度上半期			令和3年度上半期			令和2年度上半期		
	R4.9.30 現在高	運用 収入	平均 利回り	R3.9.30 現在高	運用 収入	平均 利回り	R2.9.30 現在高	運用 収入	平均 利回り
預金関係	93,962	0	0.0031%	82,746	0	0.0022%	79,492	0	0.0007%
債券	2,500	1		1,800	1		1,000	0	
計	96,462	1		84,546	1		80,492	0	
	3年度末現在高：96,427			2年度末現在高：84,589			元年度末現在高：80,579		

*平均利回りは、当該年度上半期の運用収入の2倍を前年度末日の現在高で割った数値で算出しています。



(2) 金融機関種別の運用内訳

金融機関の選定では、金利の引き合いを実施し、金利はもとより、格付け会社の評価や区への貢献度などを総合的に判断し決定をしています。また、元本の安全性等を考慮し、令和2年度から債券（地方債、財投機関債等）による運用を行っています。

単位：百万円

区 分	令和4年度上半期 (令和4年9月30日現在)		令和3年度上半期 (令和3年9月30日現在)		令和2年度上半期 (令和2年9月30日現在)	
	運用額	割合	運用額	割合	運用額	割合
都市銀行	3,962	4.1%	2,746	3.2%	2,492	3.1%
地方銀行・信金等	90,000	93.3%	80,000	94.6%	77,000	95.7%
債券	2,500	2.6%	1,800	2.1%	1,000	1.2%
計	96,462	100.0%	84,546	100.0%	80,492	100.0%

* 割合については、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

